

環境あきた

AKITA

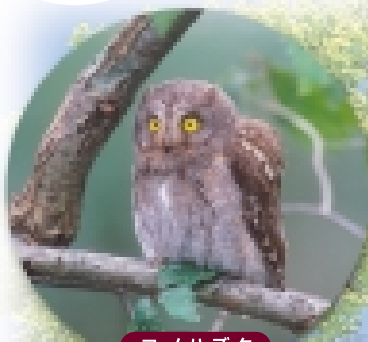
県民フォーラム 通信

発行／環境あきた県民フォーラム事務局
〒010-1403

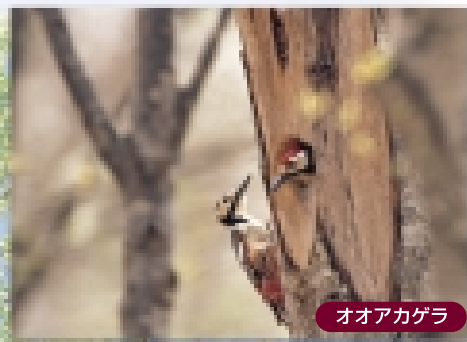
秋田市上北手荒巻字堺切24-2 遊学会（秋田県ゆとり生活創造センター）内
TEL018-839-8309 FAX018-829-5803

E-mail:mail@eco-akita.org ホームページ:http://www.eco-akita.org/

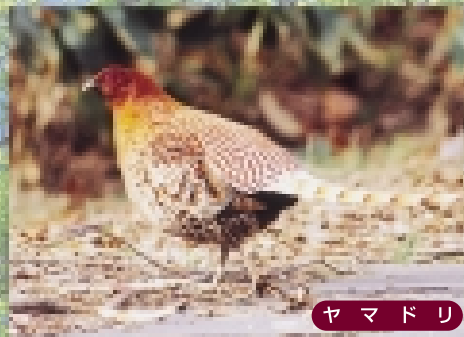
2004
夏号



コノハズク



オオアカゲラ



ヤマドリ



ヤマセミ



カケス

鳥の名前	撮影者
コノハズク	日本野鳥の会秋田県支部会員 西出 隆
ヤマドリ	// 石川 寿一
ヤマセミ	// 後藤 恭子
オオアカゲラ	// 加賀谷 幸男
カケス	// 佐藤 正生



平成16年度総会 in遊学会 ...2
NPO法人の認証申請中！ ...3
あきた環境優良事業所認定制度
～申請受付中～ ...3

ポイ捨て防止キャンペーン ...4
いよいよ始動！「秋田県リサイクル製品
認定制度」 ...4
会員活動紹介 ...5～6
土壌浄化へ産学官連携の取り組み ...7
上新城小の子どもたちがヤマメの放流！ ...7
お知らせ ...8

予告!

第4回

あきたエコ&リサイクルフェスティバル

ことは9月25日(土)・26日(日)に開催します!

平成16年5月21日(金) 県庁第二庁舎の環境センターで、第4回あきたエコ&リサイクルフェスティバル実行委員会が開催されました。

今年度は環境あきた県民フォーラム幹事の小西知子さんを実行委員長に迎え、昨年の開催状況等を踏まえて、いろいろ意見交換をしました。

開催日は9月25日・26日の土日の2日間、開催場所は昨年と同じ秋田駅前周辺(買い物広場、アゴラ広場)を予定しています。

このあと、3回の実行委員会を開催し、細部の検討を行っていく予定です。

ご意見など、ありましたら事務局までお寄せください。



昨年の様子

今年度実行委員会のメンバー (順不同 印は実行委員長)

小西 知子	環境あきた県民フォーラム
山本 久博	環境あきた県民フォーラム
木川 弘	環境あきた県民フォーラム
奥山 直巳	(社)秋田県建設業協会
長崎 雄二	(社)秋田県産業廃棄物協会
今井 実	秋田県鉱業会
原田美菜子	市民活動団体
牛込 謙治	秋田大学グループ(14名)
斎藤 恵美	秋田県立大学グループ(4名)
佐藤 悦紹	秋田市環境部
高松 武彦	秋田県農林水産部森林環境対策室
小松 清繁	秋田県農林水産部農畜産振興課
田川 慶武	秋田県産業経済労働部資源エネルギー課
伊藤 明光	秋田県生活環境文化環境あきたアクションチーム

事務局連絡先

環境あきた県民フォーラム

tel : 018 - 839-8309

環境あきたアクションチーム

tel : 018 - 860-1572

活動を教えてください(…)

環境に優しい活動をしている方々が秋田県には、まだまだたくさんいらっしゃいます。フォーラム通信やホームページで、ぜひご紹介したいと思いますので、事務局に教えてください。ご連絡をお待ちしています。(高村)

入会について

あなたも参加しませんか

ただいまNPO法人(特定非営利活動法人)申請中です。認証決定され、登記が済んだ後、参加形態と会費金額が若干変更になります。法人化後の会費一覧です。

会費納入について

秋田銀行 県庁支店 普通 560425

北都銀行 山王支店 普通 6099633

郵便振替口座 02280-7-76146

いずれも環境あきた県民フォーラム宛です。

なお、ニュースレター送付の都合上、銀行振込の場合は事務局に御住所、お名前を御連絡ください。

会費

区分	社員	一般会員
企業・企業関係団体	1口:1万円 年1口以上	1口:1万円 年1口以上
個人・民間団体	1口:3千円 年1口以上	1口:1千円 年1口以上

環境あきた県民フォーラム事務局

〒010-1403 秋田市上北手荒巻字塚切24-2 遊学舎(秋田県ゆとり生活創造センター)内

FAX 018-829-5803 TEL 018-839-8309

Eメール mail@eco-akita.org ホームページ <http://www.eco-akita.org/>

事務局から

いろいろな話を聞く機会がふえるにつけ、環境を考える人の輪が広がっていることを実感します。その反面、目の前でパンの空き袋を平然と捨てる、車の窓を開けてタバコの吸殻を捨てるなど、見かけると悲しくなります(T^T)

平成16年度総会

in 遊学舎!

平成16年4月17日(土)遊学舎において、平成16年度環境あきた県民フォーラム総会が開催されました。会員以外の方も加え、140名を超える参加をいただき盛会となりました。

初めに平成15年度の事業報告、収支決算報告があり、秋田県生活学校連絡協議会会長の泉谷明子さんによる監査報告の上、承認されました。引き続き、平成16年度事業計画(案)、収支予算(案)とともに、NPO法人設立に伴う任意団体の解散に関する規約の一部改正(案)も承認され、総会は終了しました。

その後、来賓代表として秋田県生活環境文化部長の佐藤憲之助氏のあいさつがあり、環境保全・保護活動に力を入れ、将来の子供たちに「美しい秋田県」を残したいという熱意を語られました。

また、当日は社団法人 長野県環境保全協会会長の茅野實氏の特別講演「長野県の環境保全について」があり、八十二銀行頭取時代に創設された長野県環境保全協会の活動や、茅野氏の環境保全に対する深い思いについて、笑いを取り混ぜながら話をされました。

「緑の自転車」と称して、再生自転車を子供たちが緑色に塗り、それ



茅野氏 講演

を市内で自由に乗りまわれる制度や、八十二銀行職員が夏場はワイシャツを開襟シャツにして冷房温度の設定を上げるというような実例、また、マイカー使用ほどCO₂を排出し地球温暖化を助長させるものはないと考え、せめて2km程度の範囲のマイカー使用自粛を呼びかけているが、なじんでしまったマイカーの便利さから、なかなか成果が上がらないというお話もあり、いずこも同じとうなずいている参加者が多かったのが印象的でした。



NPO法人設立総会

講演の最後には、「環境あきた」といっているが、決して「あきた」と言わないで環境保全活動を行ってほしいということと、環境保全に関して熱心に取り組む余り、茅野氏が一番と自負している長野県の環境保全活動を抜かないでほしいという願いをされ、聴衆は笑いながらの締めくくりとなりました。



総会風景



佐藤生活環境文化部長

NPO法人の認証申請中！

平成16年4月17日(土)の環境あきた県民フォーラム総会終了後、NPO法人環境あきた県民フォーラム設立総会を開催しました。設立総会では、設立趣旨、定款(案)、事業計画(案)、収支予算(案)などを提案し、承認が得られましたので、NPO法人の認証申請書類を所管課の秋田県県民文化政策課に提出し、4月28日受理されました。このあと2ヵ月間の公告縦覧期間を経てから、問題がなく認証を得られれば、7月中にNPO法人の登記が完了します。当初の役員をお知らせします。

理事長	山本久博	理事	谷 惇
副理事長	木川 弘	理事	原田美菜子
副理事長	那須チカ子	理事	土方博生
理事	蝦名萬智子	理事	藤原儀弘
理事	小西和博	理事	桃崎富雄
理事	小西知子	監事	泉谷明子
理事	高橋鑛司	監事	鈴木明夫

あきた環境優良事業所認定制度～申請受付中～

平成16年4月1日から「あきた環境優良事業所認定制度」の申請受付を開始しました。

まだ内容等、認知度が低い現状ですが、6月1日現在、4つの事業所からステップ1に申請をいただきました。

事業所名	業 種	所在市町村
美容室 ささき	美容業一般	大館市
エヌエス環境(株) 東北支社秋田支店	環境総合コンサルタント	秋田市
(株)清水組	工事全般ほか	男鹿市
(株)エポックコミュニケーションズ	総合広告会社	秋田市

それぞれの事業所なりの取組内容の申請をいただいております。現在、書類審査しているところです。このほか、ステップ2を検討中で申請予定の事業所もあります。このあと、書類審査、現地審査、審査員によるアドバイスを経て、認定審査会で認定を決定することになります。

現在、環境に配慮した事業活動を検討中の事業所の皆様、ぜひふるって申請してください。



ポイ捨て防止キャンペーン

5月30日（ゴミゼロの日）秋田駅前周辺でポイ捨て防止キャンペーンを行いました。

秋田県ポイ捨て禁止条例で定める「空き缶等散乱防止強調週間」（5月30日～6月5日）に合わせたPR活動で、秋田県環境あきたアクションチームが主催しました。

参加者は下記の方々です。

参加者

イオンの森ジャスコ御所野店こどもエコクラブ
秋田市ひろおもてエコクラブ
南鬼頭町内「すぎっこクラブ」
環境あきた県民フォーラム
日本たばこ産業(株)盛岡支店・秋田営業所
富士通サポートアンドサービス(株)秋田支店
秋田県愛玩動物飼養管理士会
秋田市民生協
秋田市環境部 ほか
計87名

キャンペーン隊としてこどもエコクラブの子供たちがPRうちわとポケットティッシュ配り、クリーンアップ隊はゴミ拾いと、それぞれ活動しました。集められたゴミは大量ではないものの、空き缶、空きペットボトル、たばこの吸殻という定番ゴミのほか、壊れた傘が目立ちました。



ポイ捨て防止キャンペーン隊出発！



こどもエコクラブ がんばるぞ！



クリンちゃんうちわをどうぞ

いよいよ始動！ 「秋田県リサイクル製品認定制度」

「秋田県リサイクル製品認定制度」が、この4月1日から始動しました。これにともない、説明会が秋田市、鷹巣町、横手市を会場に開催されました。

4月20日秋田市のみずほ苑、21日鷹巣町の北秋田地域振興局、22日横手市の平鹿地域振興局で、それぞれ行われましたが、3会場ともたくさんの事業所の方々に参加され、説明会後の質問、個別相談など担当の環境あきたアクションチームのスタッフはうれしい悲鳴とともに対応に追われました。

この制度は「限りある資源の有効活用」「県内廃棄物の減量化」「リサイクルに取り組む業者への支援」という意味で条例化されたものですが、まだまだ歩き始めたばかりであり、これからいろいろ議論していくことが必要になるでしょう。まずはスタートを切ったということで、リサイクルの輪が広がっていくための一助になるものと期待できます。

なお、当日は「16年度県内産エコ製品普及モデル事業」についての説明もありました。これは、エコ製品のモデル施工の機会を提供するもので、県内外へのPRもねらいとしています。平成17年度からは県認定リサイクル製品リストの中から、モデル事業使用製品を選定する予定です。

今年度の予定事業箇所・内容

きみまち阪自然公園遊歩道整備（間伐材手すり、ウッドチップ舗装）
 県庁舎リサイクル施設整備（廃ガラス景観舗装、リサイクルブロック、間伐材藤棚）
 岩城少年自然の家（間伐材階段・防護柵、廃ゴム・ウッドチップ舗装）
 秋田ふるさと村（間伐材駅舎、リサイクルブロック、廃木・プラ公園資材）

上記に関するお問い合わせは環境あきたアクションチームまで

tel : 018-860-1572 fax : 018-860-1574

E-mail: akaction@pref.akita.lg.jp

ホームページは

<http://www.pref.akita.jp/bika/>

バイオディーゼル燃料車の輪が広がっています！

秋田市の(株)東北エコシステムズでは、使用済みてんぷら油を回収し「バイオディーゼル燃料(BDF)」を製造・販売しています。このBDFは軽油と比較すると黒煙3分の1以下、硫黄酸化物ほぼゼロ、二酸化炭素は同じ程度の環境に優しい燃料です。運輸局へ軽油からの燃料変更手続をするだけで、従来のディーゼル車にそのまま使用することができることから、県内にその輪が広がりつつあります。

使用済みてんぷら油は同社の専用タンクに流し込んで保存しておけば、回収車が定期的に取りに来ることになっていて、スーパーや生協、最近では大手コンビニも参入しました。これまで揚げ物の使用済み油を凝固剤で固めてゴミとしていたものがBDFとして再生利用されるわけです。

秋田県内でもタクシー会社を初めと

する企業、農事組合法人、そして自治体公用車にも使用され、広がりを見せています。低公害車への買い替えには高額な費用が必要とされますが、軽油をBDFに変更することでも環境負荷を減らすことが可能になります。

二酸化炭素排出量削減につながり、資源循環の形が目に見える純植物性の

新しい燃料BDFの利用の輪は、これから広がることでしょう。

連絡先

(株)東北エコシステムズ

〒010-0951 秋田市山王5-7-9

tel: 018-866-6236

ホームページ

<http://www.touhoku-eco.co.jp/>



遊学舎の廃油回収用据置タンク

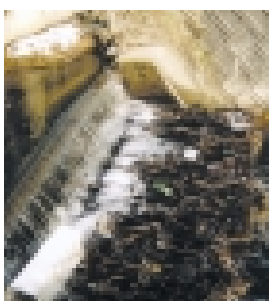


二ツ井町の交通指導車もBDF使用

小倉川を五城目町で一番きれいにする会

代表 佐藤 幸作さん

会の名前のとおり、地域を流れる小倉川(内川川の支川)を五城目町で一番きれいにしようという活動が地区の皆さんで行われています。平成11年から始まったこの活動は年に数回、同地区の会員の方々が内川川との合流点から約1・5キロをさかのぼってゴミを拾い集めています。ことしも雪の中、3月7日に第1回が行われました。会員の皆さんは軽トラックの荷台いっぱいのゴミを分別して片付けていました。このあと、田植え繁忙期が終わり会員の方々に余裕ができたころ、またゴミ収集活動を行う予定です。



川に設置の「やな」

集落近くの小倉一号橋下流地点には、佐藤さん手製の竹で組んだ「やな」を設置しており、流れて

くるゴミが引っかかるようになっていきます。これは、下流にゴミを流さないことと、ゴミが住民の目に触れることで「川にゴミを捨ててはいけない」という意識を喚起するという目的があるということです。川の端でゴミ焼却をするといった昔からの習慣を、分別してゴミ収集に出すように変えることも口で言うほど簡単なことではありません。少しずつでも意識変革をと始めた川のクリーンアップですが、活動が始まったころに比べると、ずいぶんゴミの量も減りました。

小倉川は同地区の森山を水源とし、内川川、さらに馬場目川へと合流し八朗湖に注いでいます。水質汚濁の著しい八朗湖の水質改善のためにも上流部としての取り組みが大事という会員の活動成果もあいまって、たくさんのホタルが飛び交うようになりました。一昔前は夏に蚊帳の中にホタルを放して楽しんだそうですが、今では地球温暖化のせいか、まさかと思うほど時期が



小倉川清掃中



珍客？
タヌキ君

早まっていて、平成13年には6月16日にホタルを見たそうです。

代表の佐藤さんは、小倉川で何年もかかってアブラハヤという小魚の餌付けをしており、今では川岸に集まってくるようになったそうです。飛び交うホタル、釣りにお勧めの小倉堰、樹齢四百年ものクスノキやカスミ桜、そして黒毛和牛の飼育舎など、自然を満喫できる里山や川のある原風景を楽しんでもらいたいということで、個人的に見学や散策の案内を引き受けていらっしゃるということです。

連絡先 秋田県五城目町内川小倉
佐藤 幸作 tel: 018-852-3198

人と地球に優しいアイドリングストップバス

秋田中央交通株式会社

秋田市周辺のバス路線を所管している秋田中央交通(株)では平成9年から環境保護と経費削減を目的として「アイドリングストップバス」を導入し、現在は78台が稼働しています。

アイドリングストップ車とは、停車時にギアをニュートラルに入れ、パーキングブレーキを引き、クラッチペダルを離すと自動的にエンジンがストップする車両で、アイドリングという、いわゆるエンジンの空ぶかしがありません。

導入当初は、冷暖房の使用中等負荷がかかるとエンストするという不安があったそうですが、年々改良されて、今は問題なく運行しています。

私たちが普通自動車の運転をする場合、停車するたびにエンジンを切るのは、かなりめんどろな上に、かえって燃費も悪いと思いますが、ギアをニュ

ートラルに入れクラッチペダルを離すと通常の停車手順で自動的にエンジンがストップし、また発車手順を踏むと自動的にエンジンがかかるというのであれば、余り手間がかからずアイドリングストップも低燃費も可能となります。停車時間が短い場合など無理なときもあるでしょうが、運転士さんたちの地道な努力がこの機能を生かしています。公共交通機関として必要なものであり、なおかつ大型車であるバスがこの機能を兼ね備えていれば、二酸化炭素の大幅削減につながります。

同社では、今後、バスの更新時にアイドリングストップ機能のバスに切り替えていくことになっていて、地球温暖化防止に大いに役立つことが期待されます。運転マニユア

ルに関しても、バスの終点時には必ずエンジンを停止することや、発車前のアイドリング10分間以内という指導を行っており「人と地球に優しいバス」を目指しています。

連絡先

秋田中央交通(株) 営業部

tel : 018-823-4413



アイドリングストップバス

環境カウンセラーのつぶやき

あきた環境カウンセラー
蝦名萬智子

「知ろう、学ぼう、考えよう - 秋田の現在」

～公開講座や産学連携推進フォーラムについて～

環境問題は政治経済と密接な関係があり、環境問題に対応するための研究開発についても、その動向を捉えて問題点を把握し、環境カウンセラーとしての活動に備えていかなければならないと考えています。秋田県では、産学官民の共同研究を公開講座などで広く

一般に提供する機会を設けています。

秋田大学では、通年的に各種の公開講座を開講しており、環境問題についても、昨年は24時間の講義のほか、地域共同研究センターセミナーも開催しています。また、附属鉱業博物館では、年2回の企画展と講演会やジュニ

アサイエンススクール、子供科学教室などを開催し幅広い年代への教育活動を行っています。

(財)あきた産業振興機構では、「あきた産学連携推進フォーラム」を12月の第1木曜日に開催し、特別講演と共同研究事例発表の後、共同研究懇談会の第3会場にはバイオ関連分野、第4会場には環境・新

エネルギー関連分野を設定し各分野の研究発表が行われました。

平成16年度秋田県立大学地域共同研究センターの公開講座「秋田 その未来」(3回シリーズ)が5月に開催されました。この講座には、秋田県立花輪高等学校進路指導部教諭の伊藤栄治さんが引率して同校3年生の男子6名、女子2名が聴講しました。最新の研究情報の取得機会であると共にインターンシップの実践例でもありました。6月5日に、同大では「特色ある大学教育支援プログラム」採択を記念してノーベル化学賞を受賞した筑波大学名誉教授 工学博士 白川英樹氏を迎えての特別講演会を開催しました。

こうした企画に参加して、知見を深めたいと考えています。

<http://www.cna.ne.jp/> neggy/



秋田県立大学公開講座「秋田 その未来」

土壌浄化へ産学官連携の取り組み

「秋田土壌浄化コンソーシアム」

昨年7月、県内を中心とする非鉄金属、弱電、印刷機械製造などの企業と秋田大学、県立大学が一体となり、土壌浄化ビジネスの可能性を目指して「秋田土壌浄化コンソーシアム」を発足させました。

重金属や揮発性有機化合物などで汚染された土壌の浄化について、新しく施行された土壌汚染対策法との兼ね合いから、ビジネスチャンスの可能性を探ることを目的として勉強会を開いたり、会員相互が情報交換し、事業化を検討しています。

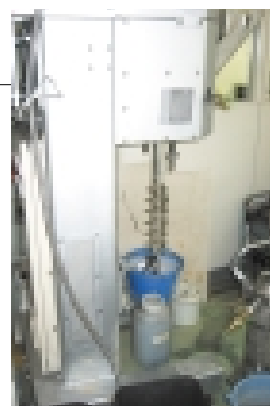
秋田県は有数の鉱山県であり、油田も数多く存在した歴史があることから、重金属汚染や油汚染箇所も多く見られる現状にあります。土壌汚染は目に見えにくいこともあり、地下水、食物、河川と汚染が広がり、知らないうちに健康を害したり、場合によっては取り返しのつかないことがあります。

そのためにも、できるだけ早く浄化に取り組む必要があることから、コンソーシアム事務局を秋田大学VBL（ベンチャービジネスラボラトリー）内に設置して活動を開始しました。

事務局のある秋田大学VBLでは、希少鉱物リサイクルの研究が行われており、加えて土壌浄化に関する研究も始まっています。油田採掘時、あふれる水の中に生息する「原油生息細菌」を活性化させて油を分解する油汚染浄化の研究が進んでいました。この細菌にはダイオキシン分解能力の可能性もあるということです。これらは、鉱山学部の知識・経験・技術から派生したものが多く、いろいろな分野での研究に応用し、企業の相談にも応じているということです。

大学や企業が連携し、お互いの知恵袋の出会いが土壌浄化のみにとどまらず、環境保護、保全、そしてリサイク

ルへと新たな発見に結びついていくことでしょう。



タワーミル(粉砕機)による土壌浄化細菌研究

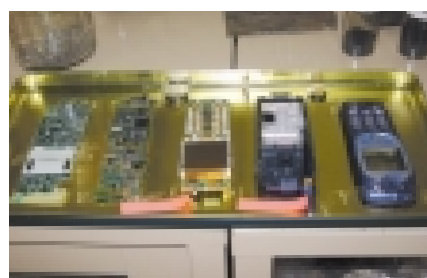
連絡先

秋田土壌コンソーシアム事務局

秋田大学VBL内

tel : 018-889-3078

E-mail: akitadojo@hotmail.com



分解された携帯電話金など希少鉱物の宝の山

上新城小の子どもたちがヤマメの放流！

「第13回新城川ヤマメの放流」が、6月8日（火）、秋田市上新城地区の白山河川公園で行われました。

この事業は、上新城地区市民協議会



ヤマメのえさの研究発表



ヤマメ君、元気だね！

の主催で、毎年、この時期に上新城小学校の子どもたちが放流活動をしています。今年も、地区の方々や協力している秋田市農林部、稚魚の育成に当たった企業も参加して開催されました。

開会前に会場に集合した4・5・6年生の子どもたちは、周辺のゴミを拾い集めました。ゴミの量は、去年より少なかったのですが、金属性のゴミがあったこと、水分が含まれていたことで重く感じたそうです。

開会式では、放流活動の学内リーダーとなる4年生全員がヤマメの研究発表を行い、稚魚を育てた石川善春さんに、放流するときの注意点など指導していただいた後、全校児童73名が、5,000匹のヤマメの稚魚を新城川に旅立たせました。ヤマメは海まで泳ぎ出て「サクラマス」となって川に帰ってくるということで、子どもたちは「元気だね」と声をかけながら放流してい

ました。

当日は、あいにくの雨でしたが、お天気がよいときはカラスが放流されたばかりの稚魚を襲うこともあるそうで、雨降りのお天気は放流活動に向いているということです。

閉会式では、6年生の一ノ関晴輝さんが「僕たちの住んでいる上新城の環境を守っていく努力をしていきたい」と感想を話しました。

「清流のパイロット」と名づけられているヤマメが元気に育って、川の水が清流のまま海に注ぐようになるのが上新城小学校の子どもたちの願いです。

上新城小学校へようこそ

「山と川、みどりとヤマメの上新城」

<http://www.edu.city.akita.akita.jp/~ksj-s/>

〒010-0135 秋田市上新城五十丁字大村屋敷22